

「第8回滋賀県施設合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～」

記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に招待券をお渡しできます。

1. 概要

本展は滋賀県内の福祉施設職員と滋賀県社会福祉事業団が実行委員会を組織し、企画・展示を行う施設合同企画展です。

これまでも、障害のある人が日々の暮らしの中で生み出した表現や造形活動のおもしろさや輝きを、多くの人に知って感じてもらいたいという思いで作品展を実施してきました。

今回で八回目を迎える本展も、展覧会のために作り出された作品を展示するのではなく、「日々の暮らしの中で生み出されたもの、日常の中で継続して取り組んでいるもの」など、まさに「ing・・・障害のある人の進行形」を感じてもらえる展覧会です。

2. 展覧会名

第8回滋賀県施設合同企画展 ing・・・～障害のある人の進行形～

3. 主 催

第8回滋賀県施設合同企画展実行委員会
ボーダレス・アートミュージアムNO-MA

4. 後援（予定）

滋賀県、滋賀県教育委員会、近江八幡市、近江八幡市教育委員会

5. 開催場所

ボーダレス・アートミュージアムNO-MA（近江八幡市永原町上16）

6. 開催期間

2011年12月3日（土）～2012年1月11日（水）

7. 開館時間

11:00～17:00

8. 休館日

月曜日（但し、1月9日（月・祝）は開館し、1月10日（火）休館）
2011年12月29日（木）～2012年1月6日（金）年末年始休館

9. 観覧料

一般200円（150円）、高大生150円（100円）、中学生以下無料

※（ ）内は 20 名以上の団体料金 ※障害のある方と付添者 1 名無料

10. 出展施設及び出展者数

あそしあ、伊香立の杜木輝、滋賀県立近江学園、かいぜ寮、蒲生野会ケアホーム、
クリエートプラザ東近江能登川作業所、湖北まこも、さくらはうす、
しあわせ作業所、滋賀県立信楽学園、信楽青年寮、社会就労センターこだま、
ステップアップ 21、八身福祉会、バンバン、ふくらの森、彦根学園、
びわこ学園医療福祉センター野洲、やまなみ工房、滋賀県立むれやま荘、
ワークスさかた （21 施設、31 作家）

協力：おおつ福祉会、草津市立障害者福祉センター、
障害者支援事業所いきいき、蛍の里

11. 協力

（社）近江八幡観光物産協会、NPO 法人しみんふくし滋賀、八幡酒蔵工房

12. 関連イベント

○オープニングイベント

2011 年 12 月 3 日（土）13:00～16:00 頃

現役施設職員ダンサー三澤奈央のパフォーマンスのあと、出展作家、造形担当者によるギャラリートークをします。ギャラリートーク終了後はティーパーティーも！

13:00～ オープニング（三澤奈央のパフォーマンス）

13:15～ ギャラリートーク（作品紹介）

14:30～ あったかティーパーティー

定員：20 人

会場：ボードレス・アートミュージアム NO-MA

ゲスト：三澤 奈央（ダンサー・あそしあ職員）

参加費：無料（要予約）

○常設ワークショップ

「オリジナル年賀状をつくろう！」

彦根学園職員片山さん制作のハンコを使ってオリジナル年賀状を作れます！（年賀状以外の図柄もあります。）

会場：ボードレス・アートミュージアム NO-MA

（会期中、常時開催）

13. 出展作家紹介（一部）

※下記写真以外にも、記事の掲載に必要な写真を提供できます。お問い合わせください。



堀江 慈子 HORIE Itsuko

1954 年生まれ

びわこ学園医療福祉センター野洲

毎回2つ程度の人顔を創っている。顔は一つ一つ違い、ある顔は線を主体に描き、ある顔は立体的に浮き出る表情に、などと彼女が描くイメージに沿い、方法をも変えながら創っているようである。平面だけでなく立体のものも創っている。

顔はそれぞれ、ご家族、職員、自身などがモチーフとなっているのだろうか。それを思わせる表情のものもあるが、それぞれに何かある物語の中の登場人物を想起させるものが多い。1度に2つ3つと創られた顔も、それぞれに物語の中での関係性のある人物に感じさせられる。まさに彼女も物語を頭の中に描きながら創っているのかもしれない。



新井 厚樹 ARAI Atsuki

1974 年生まれ

あそしあ

彼は、長年に渡ってあそしあ芸術のエースであり、粘土、絵画を問わず、味わい深い作品を数多く作っている。彼が写真の被写体になるときは、ピースサインで本当に素晴らしい笑顔になる。また、よく鏡で彼自身の顔をじっと見ている。この作品は本人を描いたものだろうか。

彼はオブジェを見て描くのが得意である。ある職員が夏に買ったTシャツに、彼はチェ・ゲバラの写真を模写した。濃厚な表情のゲバラTシャツを、職員は誇らしげに一夏着こなした。



徳山 彰 TOKUYAMA Akira

1939 年生まれ

彦根学園

彼が視力を失ったのは少年時代。もう半世紀以上も前の事である。

時折、昔を懐かしむ様に、少年時代を過ごした故郷の事を職員に語ってくれる。畑仕事をする農夫、田んぼ道を駆ける自転車、道を行き交うオート三輪や路面電車、彼が生み出す作品の時代背景には、そんな古き良き時代の日本の薫りがする。それは、その時代を知らない私でさえも郷愁を覚える程だ。

作品の製作過程で職員の立入る隙は無い。自分の記憶を頼りに、黙々と作品を作り、気に入らなければ自ら壊してしまう事もある。

ここ数年は農耕に力を入れていたが、昨年から作品制作を再開した。粘土を厚紙に持ちかえ、今日も彼は自分の記憶と対話をする。



多田 亜侑真 TADA Ayumi

1982 年生まれ / 社会就労センターこだま

作業所ではもの静かな彼女。ノートに細かく、びっしり書かれた日記を昼休みに職員に見せ、日常の出来事を報告することを日課としている。自分から気持ちを表現することが苦手。しかし、ノートや手織り、絵画作品などからは彼女の気持ちが伝わってくる。

以前の作風は、お気に入りのキャラクターを描くことだったが、キャラクターの本を図鑑に変えたことで、作風が一変した。

2011 年の冬～春にかけてはセミやチョウの羽、魚のウロコを細かく描き、繊細な作品が完成した。その後は、色と模様を組み合わせ、独特な作風に変わってきた。

繊細だった作風が太い線になったことは彼女の自信の現れにも見える。



熊田 史康 KUMADA Fumiyasu

1992 年生まれ

やまなみ工房

幼少期より「水」に対して興味を強く持ち、外出時には必ず最初にその場所のトイレを確認し、トイレの水を流すことが習慣化されていた。小学2年生頃よりトイレの平面図を描くようになり、5年生には段ボールを使って立体的にトイレを作る現在の制作スタイルが確立される。

「自分の好きなモノ、したいコト」を仕事とする為、やまなみ工房へ入所、創作班で活動を行う。

ひとつの作品が完成するまでの過程においては、上手くいかず声を荒げ叫んだり、何度も納得いくまでやり直す等、楽に制作することはほとんどないが、その分、作品が完成した時の彼の表情はいつも充実感と達成感に満ち溢れている。

この資料の画像・テキスト等の著作権は、
当ミュージアムや、個人、協力団体に帰属します。
資料の情報を事前の承認なく、
複製等の行為をすることは、かたくお断りいたします。

記事を掲載していただける場合、読者プレゼント用に招待券をお渡しできます。

展覧会担当者までお問い合わせください。

【問い合わせ / 展覧会内容・掲載用写真貸出・取材】

○第8回滋賀県施設合同企画展 事務局

社会福祉法人 滋賀県社会福祉事業団 企画事業部

(ボーダレス・アートミュージアムNO-MA)

担当：藤本えりか・山田祥子

〒523-0893 滋賀県近江八幡市桜宮町 235

TEL: 0748-31-2481 FAX: 0748-31-2482 MAIL: e-fujimoto@sisyazi.jp